

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	看護学概論			担当講師	専任教員	
学科名	学 年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期	
第一看護学科	1年	A・B	1(30)	講義	令和7年度前期	
<b>科目目標</b> 看護の対象である人間と健康を理解し、総合看護の概念に基づき、看護の本質、看護の理論、看護の機能と役割について理解する。						
<b>授業概要</b> この科目は、看護の考え方の基礎を学ぶ。 看護の対象である「人間」や「健康」について看護としての捉え方を学習し、看護が行われている場や看護活動の実際について知る。また、看護が歴史上どのように発生し、どのように変化してきたかを学び、これからどのように発展していくかを予測する。現在、看護はどのように考えられているか主な理論家の考えも学ぶ。これらの学習過程を通して、「看護」とは何なのかについて自分なりの考えがもて、自分の言葉で語れるようになる。						
<b>卒業時到達目標との関連</b> DP-①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫						
回数	時間数	授 業 内 容		回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 看護活動の本質 1) 看護とは何か		10	2	5 健康の概念 (2) 看護と健康
2	2	1 看護活動の本質 2) 看護の定義 看護の本質		11	2	6 看護実践の方法 1) 看護技術 2) 実践方法としての看護過程
3	2	2 看護の歴史 1) 看護の始まりからナイチンゲールの活動		12	2	6 看護実践の方法 3) 看護実践における人間関係
4	2	2 看護の歴史 2) 日本の近代看護から戦後の看護		13	2	7 看護の理論 主な看護理論 ヘンダーソン ロイ アブデラ
5	2	3 看護の役割と機能 1) 看護の機能と活動		14	2	8 看護の理論主な看護理論 ペプロウ トラベルビー
6	2	3 看護の役割と機能 2) 保健医療福祉チームメンバーとの連携		15	2	9 現代における看護の課題 これからの看護師に求められるもの
7	2	4 看護の対象 1) 看護の視点でみる人間				【テキスト・参考書】 ・看護学概論 医学書院 ・看護覚え書き ・看護の基本となるもの ・看護六法 ・新版ナイチンゲール看護論入門
8	2	4 看護の対象 2) 人間の共通性の理解				
9	2	5 健康の概念 1) 人間と健康				【成績評価の方法】  ■ 筆記試験 ■ レポート

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	看護活動と倫理			担当講師	専任教員
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第一看護学科	2年	A・B	1 (15)	講義	令和7年度後期
<b>科目目標</b>					
看護活動における倫理の意義と倫理的課題へのアプローチ方法を理解する。					
1 看護活動における倫理の意義を理解する。					
2 看護倫理を医療の歴史的推移から理解する。					
3 看護における倫理的課題へのアプローチ方法を理解する。					
4 看護研究における倫理について理解する。					
5 看護活動場面における倫理的意思決定のステップについて理解する。					
<b>授業概要</b>					
看護倫理は、看護師の看護活動の基盤をなすものである。看護倫理について具体的な事例を用いて、解決方法を考える。					
<b>卒業時到達目標との関連</b>					
DP- 1・②・3・4・5・⑥・7・8・9・10・11・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	2	看護活動における倫理の意義			
2	2	看護倫理の歴史的推移			
3	2	看護倫理のアプローチ① 徳の倫理			
4	2	看護倫理のアプローチ② 原則の倫理			
5	2	倫理的課題のある事例の検討①			
6	2	倫理的課題のある事例の検討②			
7	2	倫理的課題のある事例の検討③			
8	1	倫理まとめ			
<b>【テキスト・参考書】</b>					
・看護倫理 よい看護、よい看護師への道しるべ、南江堂					
<b>【成績評価の方法】</b>					
■ 筆記試験					
■ レポート					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	看護研究の基礎			担当講師	専任教員	
学 科 名	学 年	ク ラ ス	単 位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期	
第一看護学科	2年	A・B	1 (30)	講義	令和7年度後期	
<b>科目目標</b> 看護研究の基礎的知識を学ぶ。						
<b>授業概要</b> 看護研究は、研究手法を用いてよりよい看護が実践できる基盤を追及する過程である。看護研究の基礎的な知識については、学生が関心をもった課題について実際に研究のプロセスをなぞりながら、研究計画書の作成、データ収集や分析の方法、論文の書き方を学習する。 ケーススタディのまとめ方については、次年度に行うケーススタディの作成につながるよう受持った事例をまとめるとするとどのようになるかをイメージできるよう授業を行う。						
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・⑫						
回数	時間数	授業内容		回数	時間数	授業内容
1	2	1. 看護における研究 1) 研究とは 2) 研究プロセス 3) 研究の種類とレベル		10	2	6. データの分析 1) 量的データの集計と分析 2) 質的データの分析
2	2	2. 研究課題の明確化と文献 1) 問題点の明確化 2) 文献とは 3) 文献の種類 4) 文献探索のポイント 5) 文献カード		11	2	7. 研究計画書の記述
3	2			12	2	8. 事例研究（ケーススタディ）のまとめ方①
4	2	3. 看護研究の進め方 1) 研究課題（テーマ）の検討と決定		13	2	8. 事例研究（ケーススタディ）のまとめ方②
5	2			14	2	8. 事例研究（ケーススタディ）のまとめ方③ エピソードの書き方
6	2	4. 研究デザイン 1) 研究のデザインと研究のレベル 2) 実験的研究デザインと非実験的研究デザイン		15	2	9. 研究の評価 研究の発表と倫理
7	2			【テキスト・参考書】 別巻 看護研究 医学書院		
8	2					
9	2	5. データ収集 1) 研究対象の決定 標本の抽出 2) 観察法、面接法、質問紙法		【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ 演習の参加状況やレポート		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	看護過程			担当講師名	専任教員	
学科名	学年	クラス	単位数 (時間数)	授業の種類	実施時期	
第一看護学科	1年	A・B	1 (30)	講義	令和7年度後期	
<b>科目目標</b> 看護過程を展開する上で必要な基本的な思考プロセスを理解する。						
<b>授業概要</b> この授業では、看護過程の基礎知識について学び、看護過程の方法論を理解することを目標とする。具体的には看護過程の構成要素である問題解決型アプローチの5段階（①アセスメント、②看護問題の明確化、③看護計画の立案、④実施、⑤評価）をそれぞれ事例を用いて理解する。ヘンダーソンの情報収集の枠組みを用いて看護過程を展開する。そして、看護における記録は情報共有のための必要不可欠な手段である。看護記録の法的規定、目的・意義について基本的な知識を習得する。 臨床場で看護師は目の前にいる対象の変化に気づき、状況をとらえ、どう反応するかという行動につながる判断、つまり臨床判断が求められる。講義や演習を通し、臨床判断を行うための基本的な考え方や方法について学ぶ。						
<b>卒業時到達目標との関連</b> DP-①・2・3・4・⑤・6・7・8・9・10・11・12						
回数	時間数	授 業 内 容		回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 看護過程とは 1) 看護過程の基になる考え方と理論 2 看護過程の構成要素 1) アセスメントとは ①情報収集		10	2	2) 事例を用いての看護過程の展開 ④看護上の問題の特定
2	2	2 看護過程の構成要素 1) アセスメントとは ②看護上の問題を明確化していく 段階 情報の分類・整理 情報の分析 問題仮説の推論・統合		11	2	2) 事例を用いての看護過程の展開 ⑤看護上の問題に対する看護計画の立案
3	2	2 看護過程の構成要素 2) 看護上の問題の特定 ①特定された看護上の問題の表現 ②看護上の問題と共同問題 ③問題の優先順位		12	2	4 看護における記録 1) 看護記録 ①看護記録に関する法的規定 ②看護記録の目的と意義
4	2	2 看護過程の構成要素 3) 計画とは ①目標の設定 ②計画の立案		13	2	5 臨床判断の考え方 1) 臨床判断とは 2) 臨床判断のプロセス 3) 看護過程との関係
5	2	2 看護過程の構成要素 4) 実施 5) 評価		14	4	5 臨床判断の考え方 4) 臨床判断プロセスを用いた演習
6	2	3 ヘンダーソンの枠組みを用いた看護過程の展開 1) ヘンダーソンが考える看護 2) 事例を用いての看護過程の展開		15		
7	2	3 ヘンダーソンの枠組みを用いた看護過程の展開 2) 事例を用いての看護過程の展開 ①常在条件、病情的状態、基本的欲求に関する情報収集 ②基本的欲求の充足・未充足状態の判断		<b>【テキスト・参考書】</b> 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護過程に沿った対症看護 学研  <b>【成績評価の方法】</b> ■筆記試験		
8	4	2) 事例を用いての看護過程の展開 ③基本的欲求の未充足状態の原因・誘因の分析・解釈				
9						

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	看護過程演習			担当講師名	専任教員
学科名	学年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実施時期
第一看護学科	2年	A・B	1 (30)	演習	令和7年度前期
<b>科目目標</b> 対象に応じて看護過程の思考プロセスを用いる方法を習得する。					
<b>授業概要</b> 看護過程で学習したプロセスを確認しながら、一人一人が看護過程展開のプロセスを理解できることを目指す。具体的には、2事例のペーパーペイシエントを担当し必要な看護を導き出すために看護過程の展開を行い、発表をとおして理解を深める。進め方は、事前課題について個人で学習してきた内容をグループで共有しながら行う。技術演習については計画した内容を実際に演示して評価、修正を行う。					
<b>卒業時到達目標との関連</b> DP-1・2・3・4・⑤・⑥・7・8・9・10・11・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1. 情報収集 1) 常在条件を含む情報 2) 病理的状態に関する情報 3) 各ニードごとに必要な情報	10	2	5. 最終発表 1) 看護計画の発表と技術の実施 2) 振り返り
2	2	2. 各ニードの分析・解釈 1) 充足・未充足の判断 2) 未充足の原因・誘因についての分析・解釈 (常在条件・病理的状態・その他のニードの関連をふまえて) 3) 今後の予測 (回復・悪化) と看護の方向性 (身体・精神・知識面を踏まえて) 4) 考えられる看護の問題	11	2	3) 実施した計画に対する評価・修正 2事例目展開に向けた準備
3	2		12	2	6. 実習に沿った看護過程の展開 1) 情報収集 (2事例目) ・ 常在条件を含む情報 ・ 病理的状態に関する情報 ・ 基本的欲求の充足・未充足の判断 2) 看護上の問題の特定 3) 看護計画立案
4	2		13	2	
5	2	中間発表 ニード分析を発表	14	2	
6	2	3. 看護上の問題の特定 1) グループニング 2) 問題リスト	15	2	4) 本日実施する援助計画の発表 5) まとめ
7	2	4. 看護計画立案 1) 長期目標 2) 短期目標 3) 観察計画、ケア計画、指導・教育計画	<b>【テキスト・参考書】</b> ・基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 ・看護過程に沿った対症看護 学研 <b>【成績評価の方法】</b>		
8□	2	4. 看護計画立案 最終発表に向けた準備	<b>【成績評価の方法】</b> ■演習での成果物 (提出物) レポート 出欠席等		
9	2	5. 最終発表 1) 看護計画の発表と技術の実施 2) 振り返り			

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	看護に共通する援助技術			担当講師	専任教員	
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期	
第一看護学科	1年	A・B	1 (40)	講義	令和7年度前期	
<b>科目目標</b> 看護実践の基礎に共通する活動、環境、コミュニケーションにおける看護技術を習得する。						
<b>授業概要</b> 活動の授業では、講義や演習を通し、ボディメカニクスの活用方法や基本的な姿勢・体位の保持と活動のための移動・移乗・移送方法の援助技術を習得する。 環境では、環境と健康との関連について学習し、健康を高める環境調整の必要性と援助方法について理解していく。さらに、環境を整えるために必要な基本技術の原理・原則を習得する。また、環境調整を行う基本技術を段階的に学習し、個々の対象に応じた環境調整の方法について、状況設定をもとに環境調整を工夫する意識を付ける。 コミュニケーションではコミュニケーションの基礎知識と看護におけるコミュニケーションの特徴を講義をとおして理解する。演習を通して自己を振り返る機会をもち、コミュニケーション技術について理解を深める。						
<b>卒業時到達目標との関連</b> DP-1・2・③・④・5・⑥・7・8・9・10・11・12						
回数	時間数	授 業 内 容		回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 基礎的活動の基礎知識 (1) よい姿勢 (2) ボディメカニクス (3) 自動他動運動の援助		12 ・ 13	4	8 臥床患者のリネン交換
2	2	2 体位 (1) 基本体位 (2) 特殊体位 (3) ポジショニング		14 ・ 15	4	9 臥床患者の環境調整(状況設定) 1) 設定された対象者に対する環境調整
3	2	3 移動 (1) 体位変換 ①援助の基礎知識 ②援助の実際		16	2	10 コミュニケーションの意義と目的、特徴 1) コミュニケーションとは 2) 看護、医療におけるコミュニケーションの目的、特徴
4	2	3 移動 (2) 仰臥位から座位、歩行の援助 ①援助の基礎知識 ②援助の実際		17	2	11 コミュニケーションの構成要素と成立過程 1) コミュニケーションの基本的構成要素(言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション) 2) ミスコミュニケーション 3) 文化とコミュニケーション
5	2	3 移動 (3) 移乗・移送 ①援助の基礎知識 ②車いすを用いる場合の援助の実際 ③ストレッチャーを用いる場合の援助の実際		18	2	12 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1) 接近的コミュニケーション 寄り添うとは、深い関心とは 2) 傾聴の技術
6	2	4 環境の概念 1) 環境とは 2) 入院患者の生活環境 3) 環境を整える意義		19	2	13 接近的行動と非接近的行動 1) 看護師の非言語的メッセージ 2) 対人距離、位置、高さ、時間 3) 質問の仕方
7	2	5 療養環境調整の目的と看護 1) 療養環境調整の目的 2) 療養環境調整の方法 3) 環境調整における看護師の役割 4) 病室の環境整備の実際		20	2	14 コミュニケーションの実際 1) ロールプレイ 2) 自己のコミュニケーションの特徴と傾向 3) コミュニケーション技術の活用 4) 演習のまとめ
8	2	6 病室の環境整備と物品の理解 1) ベッドの構造とリネンの理解 2) リネンのたたみ方・広げ方		<b>【テキスト・参考書】</b> ・基礎看護技術ⅠⅡ 医学書院 ・看護技術プラクティス 学研 ・看護覚え書 現代社		
9	2	7 ベッドメイキング 1) 敷シーツの作成 2) 三角コーナーの作り方		<b>【成績評価の方法】</b> ■ 筆記試験 ■ 実技試験(リネン交換) ■ レポート、提出物		
10 ・ 11	4	7 ベッドメイキング 3) 1人もしくは2人で行う場合のリネン交換				

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	フィジカルアセスメント			担当講師名	専任教員
学 科 名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	1 年	A・B	1 (30)	講義	令和7年度前期

科目目標  
バイタルサイン、フィジカルアセスメントの意義・種類・方法を理解する。バイタルサインの測定方法の根拠を知り、基本技術を習得する。胸部・腹部・運動機能・意識状態の観察方法（打診・触診・聴診）、身体計測の正しい測定方法を習得する。

授業概要  
臨床場面では患者の訴えや病態に基づいて身体的な情報を意図的に収集して判断することが求められる。そのためフィジカルアセスメントを行うための知識・技術を習得し、判断力を養う必要がある。  
バイタルサインの測定の意義を理解するとともに、日常生活における呼吸・循環・体温に変動を及ぼす因子がわかるように教授する。また、バイタルサインの正常・異常を理解し、測定の基本技術が根拠に基づき実施できるように教授する。フィジカルアセスメントは、主観的情報と客観的情報を統合して、身体状況に対する判断である。客観的情報を得るための方法、特に臨地で観察・評価を行う胸部・腹部の触診と聴診が行えるための技術を習得する。まず、正常な身体状況から、異常がおきた時の身体状況についての違いは何か、何をどのようにフィジカルアセスメント技術を使い身体状況の観察を行うかを教授する。

卒業時到達目標との関連  
DP-①・2・3・4・5・6・⑦・8・9・10・11・12

回数	時間	授業内容	回数	時間	授業内容
1	2	1 フィジカルアセスメントとは 1) フィジカルアセスメントの5つの技術	10	2	4) 正常呼吸音・異常呼吸音の聴診
2	2	2 バイタルサインとは 1) 呼吸・脈拍・血圧・体温のメカニズム 2) 呼吸・脈拍・血圧・体温の観察	11	2	7 フィジカルアセスメント (循環器編) 1) 心臓の位置とメカニズム 2) 循環器系のフィジカルイグザミネーション 3) 正常心音の聴診
3	2	3) 呼吸・脈拍・血圧・体温に影響を与える因子	12	2	4) 正常・異常心音の聴診
4	2	3 バイタルサインの測定方法 1) 呼吸測定と留意点 2) 体温測定と留意点	13	2	8 フィジカルアセスメント (腹部・消化器編、運動機能編) 1) 腹部のアセスメント・問診 2) 腸蠕動音の聴診 3) 触診・打診の目的 4) 運動機能と筋力、関節可動域の測定
5	2	3) 脈拍測定と留意点 4) 血圧測定と留意点	14	2	5) 腹部の観察の実際 6) 運動機能と筋力の観察実際
6	4	4 バイタルサイン測定技術 (演習) 1) 血圧測定 2) 体温測定	15	2	9. フィジカルアセスメント (意識障害) 1) 意識レベル 2) 瞳孔の診察方法 3) フィジカルアセスメントまとめ
7		3) 呼吸測定 4) 脈拍測定			
8	2	5 身体計測の目的と実際	【テキスト】 「基礎看護技術Ⅰ」 メヂカルフレンド社 「フィジカルアセスメントガイドブック」医学書院 「看護技術プラクティス」学研		
9	2	6 フィジカルアセスメント (呼吸編) 1) 呼吸器の構造と機能 2) 呼吸器系のフィジカルイグザミネーション 3) 正常呼吸音・異常呼吸音の聴診	【成績評価の方法】 ■筆記試験 ■技術試験 ■小テストや課題レポート		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	日常生活を支える援助技術 I			担当講師名	専任教員
学 科 名	学 年	ク ラ ス	単位数 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	1 年	A・B	1 (30)	講義	令和7年度前期

科目目標

対象の基本的欲求を満たし、健康回復を促すための睡眠・休息、清潔・衣生活における援助技術を原理・原則を踏まえて習得する。

授業概要

睡眠の授業では、睡眠・休息の意義、睡眠のメカニズム、睡眠障害の種類と特徴を理解する。睡眠を促すための援助方法がわかり、足浴の技術を習得する。  
清潔・衣生活では、健康で快適な生活を送るための清潔・衣生活の意義を学び、対象に適した衣・清潔援助の重要性を理解する。清潔援助の根拠を知り、援助技術を習得する。

卒業時到達目標との関連

DP-1・②・3・4・5・⑥・7・8・9・10・11・12

回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 清潔・衣生活を整える (講義) 1) 清潔の意義 2) 皮膚粘膜の構造と機能 3) 衣生活を整える意義 4) 病衣の条件	11	2	7 休息・睡眠の意義 8 睡眠のメカニズム 1) 睡眠恒常性維持機構 2) 体内時計機構 9 睡眠の種類 10 睡眠中の身体の変化
2	2	2 全身清拭・寝衣交換 (講義) 1) 全身清拭の目的・方法 2) 寝衣交換の方法	12	2	11 睡眠障害の種類と特徴 1) 不眠症 2) 過眠症 3) 睡眠時無呼吸症候群
3 ・ 4	4	2 全身清拭・寝衣交換 (演習) 3) 温湯での全身清拭	13	2	11 睡眠障害の種類と特徴 4) 概日リズム睡眠障害 5) 睡眠時随半症 12 不眠の原因とアセスメント
5	2	2 全身清拭・寝衣交換 (演習) 4) 和式寝衣の交換	14	2	13 睡眠を促す援助の方法 1) 環境を整える 2) 生活リズムを整える 3) 入眠しやすい準備をと整える
6 ・ 7	2	3 様々な方法での清拭 (講義) 1) 熱布・石鹸を使用した清拭の目的と方法 2) 整容・入浴の目的と方法 4 洗髪 (演習) 1) 洗髪の目的と方法 2) ケリーパッドを使用した臥床患者の洗髪の実施	15	2	14 快適な睡眠への援助 1) ベッド上で行う足浴の実際
8	4	5 粘膜・その他の清潔援助 1) 陰部洗浄の目的と方法 2) 陰部洗浄の実際	【テキスト・参考書】 ・基礎看護技術Ⅱ、医学書院 ・看護技術プラクティス、学研 ・看護の基本となるもの、日本看護協会出版会		
9 ・ 10	4	6 清潔援助のまとめ 1) 温湯での全身清拭・寝衣交換の実施 2) 看護師が清潔援助を行う意義	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ 技術試験		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	日常生活を支える援助技術Ⅱ			担当講師名	専任教員
学科名	学年	クラス	時間数	授業の種類	実施時期
第一看護学科	1年	A・B	1 (30)	講義	令和7年度後期
<b>科目目標</b> 対象の基本的欲求を満たし、健康回復を促すための排泄・食事における援助技術を原理・原則を踏まえて習得する。					
<b>授業概要</b> 排泄の授業では、排泄の意義とメカニズム、援助の基本、排泄物の観察を行い、判断するための基礎知識を理解する。排泄に関する援助の必要性（アセスメント）と援助の方法を理解する。排泄障害の原因と対処に応じた援助の方法がわかる。また、排泄援助に必要な基本的な援助技術を習得する。 食事の授業では、食事の意義とメカニズム、援助の基本を理解する。経口摂取や自力摂取の意義、食事援助における看護師の役割を理解する。ベッド上で安全安楽に食事できるための援助方法が理解する。また、ベッド上で安全に口腔内を清潔にするための援助方法を理解する。					
<b>卒業時到達目標との関連</b> DP-1・②・3・4・5・⑥・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 排泄の意義と援助の基本 1) 生理的・心理的・社会的意義 2) 排泄を行う環境整備 3) 援助を提供する看護師の姿勢	10	2	10 食事の意義 11 食事援助における看護師の役割 12 食事、栄養摂取のしくみ
2	2	2 排泄（排便・排尿）のメカニズム	11	2	13 食事・栄養摂取のアセスメント
3	2	3 排便・排尿のアセスメント 4 排泄援助のアセスメント 1) トイレでの排泄介助 2) 床上での排泄援助	12	2	14 病院の食事の種類 15 食事介助の方法
4 ・ 5	4	5 排泄援助の実際① 1) 便器・尿器を使用する際の援助	13	2	16 ベッド上での食事介助【演習】
			14	2	17 口腔ケアの意義と方法 1) 歯ブラシを用いた口腔ケア
6	2	6 排泄障害における患者の援助 1) 排便障害の原因と援助 2) 排尿障害の原因と援助	15	2	18 非経口栄養法 1) 経管栄養 2) 中心静脈栄養
7	2	3) グリセリン浣腸	【テキスト・参考書】 ・基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・看護技術プラクティス 学研		
8 ・ 9	4	4) 一時的導尿 5) 持続的導尿（留置カテーテル法）	【成績評価の方法】 ■筆記試験 ■技術試験		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目		治療援助技術 I			授業担当	専任教員
学科名	学年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類		実施時期
第一看護学科	1年	A・B	1 (20)	講義		令和7年度後期
<b>科目目標</b> 治療援助に必要な診察・検査、感染予防、救急法等における基本的な技術を原理・原則を踏まえて理解する。						
<b>授業概要</b> 診察・検査介助における看護師の役割、診察・検査介助に必要な基本的知識・技術・態度について理解できる。感染予防の基礎的知識の理解と感染予防対策のための技術を習得する。救急法の基礎的知識の理解と一時的救命処置の基本的行動がとれる。創傷の治癒過程と管理方法の基本が理解できる。						
<b>卒業時到達目標との関連</b> DP-1・2・3・4・5・⑥・7・8・9・10・11・12						
回数	時間数	授 業 内 容		回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 診察・検査における看護師の役割 1) 診察・検査の目的 2) 検査の種類 3) 検体検査 (尿検査、便検査、喀痰検査、血液検査、穿刺液の検査)		7	2	2 感染と感染予防策の基礎知識(演習) 6) 無菌操作の実際 7) 個人防護服と使用の実際
				8	2	3 救急法 1) 一時救命処置の基礎知識
2	2	1 診察・検査における看護師の役割 4) 生体検査 (X線検査、X線断層撮影、MRI検査、内視鏡検査、超音波検査) 5) 放射線被曝防止の実施		9	2	2) 一次救命処置の実際
3	2	1 診察・検査における看護師の役割(演習) 6) 包帯法 7) 止血法		10	2	4 創傷処置 1) 創傷とは 2) 創傷の治癒過程のメカニズム 3) 治癒過程から見た管理方法の基本 4) 褥瘡ケア
4	2	2 感染と感染予防策の基礎知識 1) 感染とは				
5	2	2 感染と感染予防策の基礎知識 2) 感染源への対策 3) 感染経路への対策		【テキスト・参考書】 ・基礎看護技術Ⅱ、医学書院 ・看護技術プラクティス 学研		
6	2	2 感染と感染予防策の基礎知識 4) 感染経路への対策 5) 滅菌物の取扱い		【成績評価の方法】 ■筆記試験		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	治療援助技術Ⅱ			担当講師	専任教員
学科名	学 年	ク ラ ス	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	2年	A・B	1(30)	講義	令和7年度前期

科目目標

治療援助に必要な与薬に関する基本的な技術を原理・原則を踏まえて習得できる。

授業概要

薬物は、正しく与薬すれば治療効果が期待できる一方、与薬方法を誤ると人間の生命にも関わる重大な医療事故となる。そのため、誤薬の危険性を回避するための与薬上の原則と注意事項や、各与薬法について作用機序を理解し、指示された薬物を適切な方法で与薬することで安全で効果的な与薬を行うための、基本的な知識・技術を講義や校内実習を通して習得する。同時に、与薬を受ける対象の心理に関心を持ち、苦痛を最小限にしたいと思う姿勢を身に付け、与薬における看護者の役割を理解する。

卒業時到達目標との関連

DP- 1・2・3・4・5・⑥・7・8・9・10・11・12

回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1. 与薬に関する基礎知識 1) 薬物療法の理解 2) 薬物療法における看護師の役割 3) 薬物療法を受ける患者の援助	11	4	9. 点滴静脈内注射の実際 ① 1) 点滴の固定法 2) 点滴の準備～実施
2	2	2. 経口与薬法 3. 外用薬の皮膚・粘膜適応 1) 口腔内与薬法 2) 直腸内与薬法 3) 皮膚用製剤の塗布・貼付 4) 点眼・点入法 5) 吸入法	12		
3	2	4. 注射法 1) 注射法の基礎知識 2) 皮下注射 3) 皮内注射 4) 筋肉内注射 5) 静脈注射	13	2	10. 静脈血採血・輸血療法 1) 静脈血採血 ①静脈血採血の基礎知識・留意点 ②静脈採血の実際 2) 輸血療法 ①輸血療法の基礎知識・留意点
4	4	5. 筋肉内注射の方法の実際① 1) 注射の準備 ①注射器の取り扱い ②薬液の吸い上げ	14	2	11. 点滴静脈注射の実際 ② 1) 三方活栓の操作 2) 滴下調整 3) 輸液ポンプ・シリンジポンプの操作
5					
6	2	6. 筋肉内注射の方法の実際② 1) 注射の準備～実施 中殿筋(四分三分法)、三角筋	15	2	12. 筋肉内注射の方法の実際④ 1) 注射の準備チェック ①注射器の取り扱い ②薬液の吸い上げ
7	2	7. 筋肉内注射の方法の実際③ 1) 注射の準備～実施 中殿筋(四分三分法)、三角筋	<テキスト> ・新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・看護技術プラクティス 第4版 学研 ・治療薬マニュアル2023 医学書院 ・薬理学 メヂカルフレンド社  <参考書> 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護過程に沿った対症看護 学研		
8	4	8. 点滴静脈注射 1) 点滴の準備～実施 2) 点滴滴下数の計算			
9					
10	2	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート			

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	看護技術演習			担当講師名	専任教員	
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期	
第一看護学科	1年	A・B	1(30)	演習	令和7年度後期	
<b>科目目標</b> 健康障害に共通して生じる症状の発生機序を踏まえた看護の実際と既習の看護技術を、科学的根拠をもとに患者の状況に合わせて実践できる知識・技術を習得する。						
<b>授業概要</b> 主要症状が出現するメカニズムを理解し、行われる治療や援助の方法が分かる。健康障害を持つ人を理解し、その対象の特徴・ニーズと臨床看護の基本が分かる。看護における患者教育・患者指導技術について理解し対象に合わせた指導を実施できる。対象の状況に合わせ、科学的根拠をもとに看護実践できる。						
<b>卒業時到達目標との関連</b> DP-1・2・3・4・5・⑥・⑦・8・9・10・11・12						
回数	時間数	授業内容		回数	時間数	授業内容
1	2	1 主要症状別看護 1) 発熱 ① 発熱とは ② 原因および誘因, メカニズム ③ 心身に及ぼす影響 ④ 主な治療 ⑤ 発熱している患者への看護		10	2	4) 事例に合わせた看護技術の発表(シュミレーション)(実習室)
2	2	2) 脱水 ① 脱水とは(定義・分類・特徴) ② 原因および誘因, メカニズム ③ 心身に及ぼす影響 ④ 主な治療 ⑤ 脱水をおこしている患者の看護		11	2	5) 看護技術とは ①看護技術の振り返り ②看護技術とは
3	2	3) 痒み(搔痒感) ① 痒みとは(定義・分類・特徴) ② 原因および誘因, メカニズム ③ 心身に及ぼす影響 ④ 主な治療 ⑤ 痒みのある患者への看護 痛み ① 痛みとは ② 痛みに影響する心理的要因 ③ 痛みのメカニズム ④ 痛みの基本的治療 ⑤ 痛みのある患者への看護		12	2	3 指導技術 1) 指導技術の基礎知識 ①看護の教育機能 ②指導技術の基本となるもの ③指導の進め方
4	2	4) 浮腫 ① 浮腫とは(定義・分類・特徴) ② 原因および誘因, メカニズム ③ 心身に及ぼす影響 ④ 主な治療 ⑤ 浮腫のある患者への看護		13	2	2 指導の実際 2) 事例を用いた指導の検討 計画立案(個人)
5	2	5) 対象に合わせた看護の実際(演習) ① 発熱のある患者への看護の振り返り ② 電法について ③ 実施		14	2	2) 事例を用いた指導の検討 計画立案(グループ)
6	2	2 対象の状況に合わせた看護技術 1) 対象の状況に合わせた看護技術とは 2) 事例に合わせた看護技術の計画(個人)				3) 事例を用いた指導の検討 指導の実施・評価
7	2	2) 事例に合わせた看護技術の計画(グループ) 3) 事例に合わせた看護技術の実施 □		【テキスト・参考書】 ・基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 ・看護過程に沿った対症看護, 学研 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス, 学研		
8	2	3) 事例に合わせた看護技術の実施(実習室)				
9	2	4) 事例に合わせた看護技術の発表(シュミレーション)(実習室)		【成績評価の方法】 ■筆記試験 ■個人ワーク、演習への取り組み状況		